第３次滝川市子どもの読書活動推進計画

2024（令和６）年度～2028（令和 10）年度

2024 年３月

滝川市教育委員会

目　次

第１章　子どもの読書活動推進計画とは
１．子どもの読書活動の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．子どもの読書活動推進計画の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３．第２次滝川市子どもの読書活動推進計画について・・・・・・・・・・・・・・・・３

第２章　第２次計画の成果と課題
１．対象別の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
２．第２次計画の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

第３章　計画の基本的な考え方
１．基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
２．目　標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
３．対　象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
４．期　間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
５．成果の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
６．策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

第４章　子どもの読書活動の推進のための方策
１．０歳前・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
２．乳幼児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
３．小学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
４．中学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
５．高校生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
６．多様な支援を必要とする子ども・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
７．子どもと関わる大人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

資料編
１．子どもの読書活動の推進に関する法律・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料１
２．文部科学省「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（概要）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料２
３．北海道子どもの読書活動推進計画［第五次計画］（概要）・・・・・・・・・資料３
４．滝川市総合計画（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料４
５．滝川市教育推進計画（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料５
６．第２次滝川市子どもの読書活動推進計画（2019 年度～2023 年度）
対象別成果検証報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料６
７．「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査　調査報告書」（概要）・・・・資料７
８．「読書活動に関するアンケート」集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・資料８
９．滝川市教育委員及び滝川市社会教育委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・資料９

第１章　子どもの読書活動推進計画とは

１．子どもの読書活動の意義

読書活動は、子どもたちが人生をより豊かにし、生きる力を身につけていくうえで欠かせないものです。子どもたちは、読書を通じて言葉を学び、様々な知識を身につけるとともに、未知の世界に触れて豊かな想像力を育むことで、変化し続ける社会の中で自ら学び、考え、課題を解決したり判断するための力を得ることができます。学力調査の分析報告[注１]からも、読書好きな児童・生徒ほど教科の学力が高く、科目、学力層、領域、設問形式によらず、この傾向が確認されており、読書と学力は密接に関係していることがわかります。併せて、OECD（経済協力開発機構）が行っている「生徒の学習到達度調査」[注２]（2019 年公表）によると、日本では本をよく読む生徒の読解力の得点が高い傾向にあり、読書をすることで複数の文書や資料から情報を読み取って根拠を明確にし、自分の考えを書くことや、テキストや資料自体の質や信憑性を評価する力が身に着くことがわかっています。また、本の中の様々な世界観を感じ、登場人物や著者に共感・反感したり、自分に置き換えて考えることで感性が磨かれ、他人を思いやる心や広い視野を得ることができ、生きる力を育むことができます。このように、読書習慣の確立は子どもの成長や発達に大きな影響を与えることから、すべての子どもたちがそれぞれの個性や発達段階に応じて、いつでもどこでも読書活動ができる環境の整備が必要です。

読書習慣の定着のための第一段階は、家庭での読み聞かせです。親子が絵本を通して触れ合うことで、子どもは親のぬくもりを感じて信頼感を抱き、親子の絆がより深まっていきます。家庭で読み聞かせをしている期間が長い子どもの方が、短い子どもよりも１か月の間に読んだ本の冊数が多くなる傾向があることも報告されています[注３]。また、読書は、子どもの言語発達を中核とした認知・思考活動を育て、それが子ども自身による読書活動につながることが発達心理学[注４]の立場から報告されています。図書館や学校図書館をはじめとした、子

注１／「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究　ー読書活動と学力・学習状況の関係に関する調査研究分析報告書ー」（静岡大学・文部科学省委託事業）

注２／15歳を対象に、３年ごとに読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの３分野で実施。日本は高校１年相当学年が対象。「読解力」の定義は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと」としている。

注３／「親と子の読書活動等に関する調査」（財団法人日本経済研究所・文部科学省委託事業）

注４／「子どもの発達と『読み聞かせ』の効用」（白百合女子大学、田島信元教授）

どもと本を結ぶ役割を担う施設を中心に、あらゆる人が、子どもの健やかな成長のために、家庭での読み聞かせの支援や読書環境の整備、発達段階ごとの情報提供を行っていくことが非常に重要です。

以上のことから、滝川市では、読書活動の普及・啓発・実践に取り組む指針として本計画を策定し、まち全体で滝川市の未来を拓く「たきかわっ子」の読書を推進します。

２．子どもの読書活動推進計画の趣旨

2001 年に、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め、国や地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの健やかな成長のため、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として、「子どもの読書活動の推進に関する法律」[注5]が成立しました。これにより、都道府県や市町村においても、「子どもの読書活動推進計画」の策定が努力義務とされたことを受け、国では 2002 年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」[注6]、北海道では 2003 年に「北海道子どもの読書活動推進計画」[注7]が策定され、2023 年３月にそれぞれ第５次計画が策定されています。

滝川市も、この法律に基づき、すべての子どもが豊かな読書体験を通して健やかに成長していくために、2014 年３月に「滝川市子どもの読書活動推進計画」（2014 年度～2018 年度）、2019 年３月に第２次「滝川市子どもの読書活動推進計画」（2019 年度～2023 年度）を策定しました。

注５／「子どもの読書活動の推進に関する法律」（資料１）

注６／文部科学省「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」概要（資料２）

注７／北海道子どもの読書活動推進計画［第五次計画］概要（資料３）

３．滝川市子どもの読書活動推進計画について

滝川市では、５か年ごとに子どもの読書活動に関する重点目標を定め、「滝川市総合計画」[注8]及び「滝川市教育推進計画」[注9]との整合性を確保しつつ、「滝川市子どもの読書活動推進計画」を策定しています。第１次計画では、読書活動を通じて子どもたちに読書習慣を身に着けてもらうことに重点をおき、「ブックスタート事業」[注10]をはじめとして、家庭での読み聞かせの啓発、図書館や学校、児童館でのおはなし会などを実施しました。続く第２次計画では、2018 年度に実施された「全国学力・学習状況調査」[注11]での滝川市の小・中学生の「読み解く力」が伸び悩んでいるという結果を受け、「調べる」「研究する」場としての図書館利用の啓発と、学ぶ力を育む活動に重点をおき、「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」や「たきかわ DE 調べる学習体験講座」などの調べ学習に関する取組の充実や、学校での調べ学習のための図書館利用の定着を図りました[注12]。

この第２次計画の計画期間が 2019 年度から 2023 年度までの５年間であることから、次の５か年（2024 年度～2028 年度）を計画期間とする「第３次滝川市子どもの読書活動推進計画」を策定します。

注８／「滝川市総合計画」（2023年度～2032年度）抜粋（資料４）

注９／「滝川市教育推進計画」（2023年度～2032年度）抜粋（資料５）

注 10／生まれてきた赤ちゃんへ絵本を贈り、その絵本を通じて、親子の心のふれあうひとときを持つきっかけをつくる取り組み。

注11／文部科学省が実施する全国的な学力調査。義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図ることを目的としている。

注12／第２次計画の成果と課題（本書　P.4～5）　及び　第２次滝川市子どもの読書活動推進計画（2019年度～2023年度）対象別成果検証報告書（本書　資料６）

第２章　第２次計画の成果と課題

１．対象別の成果と課題

０歳前

（１）成果

妊娠や出産に関するおすすめの本を紹介することで、本を活用した子育てや、保護者が図書館に足を運ぶきっかけづくりを行いました。また、母子手帳に添付する図書館の利用案内をリニューアルし、０歳前から読み聞かせを行うことの大切さについて記載し、家庭での読書活動の啓発を図りました。

（２）課題

第１次計画にて課題となっていたマタニティクラスの参加者増加への取り組み強化について、新型コロナウイルス感染症の影響により妊婦対象講座での図書館による講話が中止となり、直接的な保護者への子どもの読書活動について啓発を行うことができませんでした。子どもが生まれる前からお母さんが読み聞かせをする習慣づくりをすることは、その後の家庭での子どもの読書に大きく影響するため、引き続き様々な場面で生まれる前の子どもの保護者を対象とした子どもの読書活動について啓発を図ります。

乳幼児

（１）成果

図書館と絵本作家、出版社が、子どもたちのためにコロナ禍でもできることを共に模索し、従来の絵本作家講演会やワークショップに代わり、原画展を開催したことで、子どもたちが生のアートに触れられる機会を提供することができました。また、「どこでもドクショ。」事業や貸出文庫により、保育所や子どもと大人が集まる施設で子どもたちが本に触れられる環境の充実を図りました。参加者が減少傾向にあった「絵本のおはなし会『たまてばこ』」等の実施方法の見直しも数回にわたって行い、令和５年度には参加者が増加しました。

（２）課題

図書館と他の機関が連携して実施していた出張おはなし会など、継続して行っていた事業の中には繋がりが途切れてしまったものもあるため、改めて連携事業の PR を行い、施設や団体による図書館利用の促進を図る必要があります。

小学生

（１）成果

「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」を意識した自由研究の作品の増加や、教職員が授業の補助教材として積極的に本を活用していることから、読書によって子どもたちの興味・関心を高めることができたのではないかと考えられます。併せて、図書館学級文庫は各校で有効活用されており、人気のある本は学校図書館でも蔵書とするなど、選書の参考にもなっています。蔵書の充実については、図書室に本のリクエストボックスを設置したり、子どもたちから直接聞き取るなど、子どもたちの要望を蔵書に反映させる工夫が行われている学校もあります。また、学校図書館の運営や環境整備について、学校と図書館が連携して、子どもたちが利用しやすい環境づくりを行うことができました。第１次計画で課題となった蔵書のデータベース化も推進することができました。

（２）課題

読書アルバム（通帳）の 100 冊以上達成者数が年々減少しています。１冊の本をじっくりと読みこむことも大切な読書体験ですが、様々な本を読むことで、子どもたちの知識が広がり、読解力が向上するとともに、想像力が育まれるため、図書館と学校が協力して読書通帳（アルバム）活用の PR を行うなど、子どもたちの読書量が増えるような取り組みを実施する必要があります。また、2021 年度に小学３年生と小学６年生を対象に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」[注 13] では、「読みたい本がない」「本を読むのが好きではない」という理由で読書をしない子どもの割合が高いことがわかりました。子どもたちが読みたいと思う本の選書の精度を高めるとともに、おすすめの本の効果的な PR を行う必要があります。

注１３／「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査　調査報告書」（2021 年度）（本書　資料７）

中学生

（１）成果

第１次計画で課題となったヤングアダルトコーナーの充実について、書架を増設し、開架図書を増やしたほか、子どもたちの投票によるライトノベルやマンガの蔵書化を行いました。投票で選ばれた本は利用が多く、一部分野での子どもたちの声を取り入れた蔵書づくりが有効であることがわかりました。また、学校では、図書館学級文庫の本が朝読書に役立っているほか、POP作成講座なども活用されています。壁新聞の取材や職業調べでも図書館が利用されており、図書館について知り、興味を持つことで、身近に感じてもらうことができていると考えられます。

（２）課題

授業での図書館の本の利用が少ない傾向にあります。教職員がより図書館を活用しやすいよう、調べ学習向け図書の紹介や展示など、より具体的なイメージを持ってもらえるような工夫を行う必要があります。また、2021 年度に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」では、本を読まない子どもの割合が他の世代より少なかったものの、電子メディアの使用を理由に本を読まない子どもの割合が多く、インターネットを利用した読書推進事業について検討する必要があります。

高校生

（１）成果

高文連空知支部の図書館研究大会での図書館からの講師派遣や、滝川工業高校の開校 100 周年を記念した、関連資料や学生の製作物の展示など、読書以外での図書館利用について教職員や学生たちに知ってもらうことができました。また、第１次計画で課題となった図書館に足を運んでもらうための取り組みとして、図書局の学生に図書館のイベントや企画展示などに参加してもらったことで、学生やその関係者も多く来館し、本を手に取るきっかけになりました。

（２）課題

高校生と本を結び付ける図書館の直接的な取組を十分に実施することができませんでした。学校で過ごす時間が長い高校生向けのサービスでは、高校と図書館の連携が必要不可欠です。図書館や本の活用方法を知ってもらい、実際に利用してもらえるような工夫が必要です。また、2021 年度に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」では、高校生の４人に１人が本を読んでいないことがわかりました。読書が好きと回答した子どもでも、１日の読書時間が１時間未満の割合が高く、朝読書などの学校での読書時間の確保や、短時間で読める作品を紹介することで読書率が上がる可能性があります。

特別な支援を必要とする子ども[注 14]

（1）成果

図書館の出張おはなし会や貸出文庫などの利用を望む声が多く、障がいのある子どもや通学が困難な子どもなどの読書環境を充実させることができました。また、子どもたちとの交流によるニーズ把握を行い、おすすめの本のチラシの作成・配布や、大活字本や点字の本、手話の本の収集など、読書バリアフリーの推進に向けた取り組みを行うことができました。

（2）課題

点字併記図書や大活字本など、障がいのある子ども向けの本の出版数が少なく、図書館の資料として十分に収集することができませんでした。新しく出版された本だけでなく、必要に応じて過去の出版物の情報も収集し、積極的に資料収集を行う必要があります。読書バリアフリーへの関心が高まっている今、滝川市の状況に合わせた取り組みについて、連携して取り組むことが必要です。

子どもをとりまく大人[注 15]

（1）成果

図書館の読み聞かせボランティアの研修会を開催し、第１次計画で課題となっていた読書活動を支える人材の育成を行ったほか、おはなし会などの見直しを行い、活動内容の充実を図りました。児童サービスの向上とともに、ボランティア自身の活動意欲を高めることもできたと考えます。また、子育て講座での保護者への読み聞かせ活動の啓発や、学校での地域人材を活用した蔵書のデータベース化作業の実施など、子どもをとりまく大人による積極的な読書活動への参加が行われました。

（2）課題

コロナ禍で行動の自粛が求められたことから、これまで継続して実施してきた地域のおはなし会や、学校図書館支援ボランティアへの図書館職員を派遣した講座・支援など、地域と図書館が連携した読書普及事業を十分に行うことができませんでした。継続性が失われたことで、地域の子どもの読書に関する活動が下火にならないよう、図書館が積極的に支援をしていく必要があります。

注 14／第３次計画から「多様な支援を必要とする子ども」に表記を変更。

注 15／第３次計画から「子どもと関わる大人」に表記を変更。

２．第２次計画の成果と課題

第２次計画では、計画期間の初年度末から最終年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、事業の中止や延期・縮小、実施方法の再検討などが求められるとともに、度重なる図書館の休館や学校・保育所などの子育て関連施設の休校や休所などにより、十分に実施できなかったアクションプランもありました。しかし、そのような状況下にあっても、教職員や子育て関連施設の職員が子どもたちの読書環境を整備・維持するべく、図書館を有効活用するとともに、図書館でもコロナ禍でできる最大限のサービスを検討・実施したことから、子どもたちが様々な場面で本に触れられる機会を継続して提供することができました。

第２次計画では、読書活動を通じて子どもたちの「学ぶ力を育む」活動に重点を置いています。未就学期には、図書館の貸出文庫や「どこでもドクショ。」事業により、家庭や保育所、幼稚園などの身近な場所で様々な内容の本に触れられる環境を整えることで、子どもたちの世界観を広げ、新たなことに興味・関心を持ってもらうための土壌づくりを行うことができました。また、小学生では、調べ学習での本の活用や「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」への挑戦などにより、自ら調べ、考えてまとめる力を向上させる手助けを行うことができました。幼児・児童期に育まれたこれらの力は、年齢を重ねるごとに高度化していく学習や情報への理解度を高め、身に着けるために役立つことが期待できます。中学生や高校生は、学ぶ力と合わせて、自ら考えて発信したり、計画・実行していく力が求められます。授業でのおすすめの本の POP 作成やビブリオバトルへの参加、図書館での職場体験で自らテーマを決めて行う企画展示など、本を通して、他者に思いや考えを伝える取り組みを推進しました。このように、各年代に合わせた読書推進の取り組みによって、「学ぶ力を育む」という目標に向けて、一定の成果を得ることができたと考えます。

一方で、2022 年度子供の読書活動の推進に関する有識者会議（第４回）の資料によると、2019 年度と比較して 2021 年度の不読率が４％上昇しており[注16]、コロナ禍により図書館や学校図書館へのアクセスが一定期間制限されたことや、授業での体験活動の減少により、事前に本で調べる機会が減少したこと、全国一斉臨時休校で自宅学習の難しい小学校低学年や進学直後の中学１年生、高校１年生などの読書習慣に影響した可能性があることが指摘されています[注17]。滝川市においても、2021 年度に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」において、本を読まない子どもの割合が最も低い中学生で 12%、最も高い高校生で 27%という結果が出ており、子どもと読書を結び付ける取組を行っていく必要があります。

また、学校での GIGA スクール構想を踏まえた資料整備などが全国的に求められています。ICT などの新しい技術の活用については、上記調査にて小学生、中学生、高校生のどの世代も 80%以上が電子メディアを使用したことがあり、子どもの読書状況に変化を与えていることがわかっていることから、滝川市の状況に合わせて、検討していく必要があります。

注16／2022年度子供の読書活動の推進に関する有識者会議（第４回）濵田秀行氏発表資料。この調査では、ふだん学校以外で本を読む時間がない（読まない）ことを不読としている。

注17／濵田秀行・秋田喜代美（2022年）「小中高校生の読書活動に対する新型コロナウイルス感染症の 影響：不読率に着目して」『第66回日本読書学会大会発表要旨集』